

科目名：健康（領域） （必修1単位）		担当教員名：佐藤伴哉 担 当 形 態：単独	使用テキスト：出版社名・テキスト名 領域 健康（萌文書林）	
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 健康	
授業の到達目標及びテーマ： 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。				
授業の概要： 最近の子どもの生活習慣や運動能力などの資料を提示し、子どもの健康に関する現代的課題を考える。幼児の気になる姿や体のおかしさなどを学生自らが考える機会を通して、そのほとんどが幼児の健康に関わる身近な問題であることを理解し、その背景について考える。危険に関しては、リスクとハザードの違いとその内容を理解するために映像等の視聴覚教材を活用する。身近な環境や遊具などを活用して、実際に幼児の多様な動きを理解する。				
回	項 目	内 容		
1	幼児教育の基本	乳幼児期にふさわしい教育の中核が「環境を通しての保育」であり、子どもは身近な環境に能動的に関わり遊びを通して心身の成長が可能となることを学ぶ。遊びを通しての学びの中で、子どもの根幹にある資質・能力が幼児教育の実践を通して育まれ、小学校へとつながっていくことを理解する。		
2	幼児教育の基本	幼児期にふさわしい生活とはどのようなものか、遊びを通しての総合的指導はどのようなものかを考え、領域「健康」と他の領域の関係性を学ぶ。また、保育者の様々な役割について事例を通して学ぶ。		
3	子どもの育ちと領域「健康」	厚生労働省が10年毎に実施する「乳幼児身体発育調査」のデータに基づき、乳幼児期の身体発達と運動発達は、順序性があるとともに個人差も大きいことを理解する。また、心と体の発達には密接な関係があり、保育者は子どもが安心安定して育つ環境をつくる役割を担っていることを理解する。		
4	子どもの育ちと領域「健康」	園で子どもたちが生活習慣を獲得することの意義を理解し、子どもの必要感から獲得できるように保育者が援助していくことを学ぶ。また、子どもの発達と事故の原因が関連していることを学ぶ。映像教材を活用し、事故が起きないように環境設定、起きた時の対応方法を学ぶ。		
5	子どもの健康を巡る現状と課題	外遊びの減少など子どもの遊びの質の変化が子どもの運動能力や動きの低下など、運動発達に影響を及ぼすとともに、主体的に粘り強く遊びに取り組む心の発達にも影響していることを理解する。運動能力調査のデータを検証し、基本的な動きを獲得する敏感期に十分な経験ができていない子どもが多いことを理解する。そのため、園での運動経験が子どもの体力・運動能力の向上に大きな役割を果たすことを学ぶ。		
6	子どもの健康と遊び	映像等の視聴覚教材を活用し、また事例を通して、乳児期に基本的な動作を獲得することや、幼児期にルールのある遊びを進めていくなかで健康面だけでなく、道徳性の芽生えや人間関係の育ち、身体運動能力が高まることを理解し、保育者が発達に配慮した遊びを意識的に選択・展開していくことの重要性を学ぶ。		
7	子どもの健康と遊び	子どもの発達を促す遊具について実際にどのようなものがあるか、使う時期・時間・場所などについてグループで調べ発表する。		
8	子どもの健康と遊び	遊具を使った遊びにおける保育者の援助や配慮事項について事例を通して理解する。また、遊具の配		

		置等、子どもの興味を引き出す環境構成について学ぶ。
9	子どもの健康と遊び	実際に年齢ごとの子どもの遊びをグループに分かれて学生が体験し、それを撮影する。その動画を視聴しながら全員で振り返りを行い、まとめる。
10	子どもの健康と遊び	子ども・保護者・地域住民の力を教育・保育に取り入れていくことの重要性を、園行事「ねぶた祭り」の映像教材を活用しながら学ぶ。子どもたちの日常の遊びを行事に活かす事例として、エンドレスリレーから運動会のリレーへつなげ、子どもたちが協働活動の中で成長することを学ぶ。また、協働活動ではあっても、一人ひとりができるようになった喜びを実感できるような保育者の細かな援助が必須であることを学ぶ。
11	園生活と生活習慣	基本的な生活習慣だけでなく、園生活における決まり事や集団で生活するために必要な生活習慣もあることを学ぶ。それらは子どもたちが心地よさを味わい、保育者に認めてもらうことで獲得され、次第に子ども自身が必要性に気付いたり、主体的に生活に必要な活動を進めていくことにつながることを事例を通して学ぶ。
12	園生活と生活習慣	子どもたちが生活習慣を獲得していくうえで、保育者自身が生活のモデルとなることの重要性を理解する。生活習慣の獲得が促されるような援助とはどのような援助かを事例を通して学ぶ。さらに幼児期の発達には個人差が大きく、家庭のあり方も多様であるので、生活習慣の獲得を促すためには保育者が各家庭の様子も把握する必要がある。保育者には家庭との連携や保護者との信頼関係も求められることを理解する。
13	子どもの健康と安全教育	子どもが健康で安全な生活を営むようになるためには、心身ともに安定した状態と安全な環境を保障することが大切であることを理解する。子どもは安定した情緒のもとで主体的に遊びに取り組むことによって、充実した生活や遊びの中で様々な経験を積み、健康で安全な習慣を身に付けていくことを学ぶ。
14	子どもの健康と安全教育	園では子どもの発達に合わせた避難訓練を年間計画として策定・実施しなければならないが、映像を通して避難訓練の重要性や留意事項を学ぶ。また、事故が起こらないように安全教育と安全管理が求められるが、それでもなお起こりうる事故に対する対応について学ぶ。
15	幼児教育の現代的課題	子どもを取り巻く環境が年々悪化し、地域において安心して遊べる場所がなくなるなど、子どもの心身の健康な発達を阻害するような諸問題をとりあげ、保育者として今後どのようなことを留意していくべきかについて考える。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料：</p> <p>幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針（平成29年3月告示）</p> <p>子どもの姿からはじめる領域・健康（みらい）</p> <p>遊びや生活のなかで“10の姿”を育む保育（チャイルド本社）</p> <p>生活とあそびから見る「10の姿」（ナツメ社） 生活習慣シアター（ひかりのくに）</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>課題、期末試験等で総合評価。</p>		